

環境科学院 地球圏科学専攻
修士論文公開発表会プログラム

【第1日目】 令和3年2月4日(木)

●座長: 鈴木 光次 (生物地球化学コース教授)

- 9:40-10:00 瀬戸 龍一 (生物地球化学コース) 1
「オホーツク海沿岸の過去 2000 年間の気候変動とオホーツク文化の関係」
- 10:00-10:20 稲垣 征哉 (生物地球化学コース) 2
「水月湖堆積物コアの脂肪酸炭素・水素安定同位体比、多環芳香族炭化水素、
五環性トリテルペノイドメチルエーテルを用いた過去 2300 年間の古気候変動・
古環境変動の復元」
- 10:20-10:40 古川 圭介 (生物地球化学コース) 3
「後期更新世の氷期-間氷期サイクルに対する北太平洋の海洋循環の応答」

< 20 分 休 憩 >

●座長: 渡辺 豊 (生物地球化学コース准教授)

- 11:00-11:20 服部 圭佑 (生物地球化学コース) 4
「河川により輸送される溶存黒色炭素の動態に関する研究」
- 11:20-11:40 岸 紗智子 (大気海洋物理学・気候力学コース) 5
「酸素センサー付フロートからわかるオホーツク海の生物生産と海氷・表層水塊の関係」
- 11:40-12:00 河本 光司 (大気海洋物理学・気候力学コース) 6
「ロシア沿海州の山脈が冬季日本海上の気団変質と降雪雲に及ぼす影響」
- 12:00-12:20 芦田 隼人 (大気海洋物理学・気候力学コース) 7
「亜寒帯循環に海底地形が与える影響に関する研究」

< お 昼 休 み 12:20-13:20 >

●座長:西岡 純 (生物地球化学コース准教授)

- 13:20-13:40 王 方憲 (大気海洋化学・環境変遷学コース) 8
「A biomarker study of paleoclimate in Rebun Island over the past 17,000 years」
(過去 17000 年間の礼文島古気候に関するバイオマーカー研究)
- 13:40-14:00 井上 奨吾 (大気海洋物理学・気候力学コース) 9
「根室海峡内の海水循環とその変動」
- 14:00-14:20 高橋 智樹 (大気海洋物理学・気候力学コース) 10
「東南極アメリー棚氷の顕著な融解がもたらすケーブダンレーポリニヤへの影響」

< 20 分 休 憩 >

●座長:中山 佳洋 (大気海洋物理学・気候力学コース助教)

- 14:40-15:00 種倉 溪 (生物地球化学コース) 11
「北東シベリアインディギルカ河川低地におけるヤナギ生産量と河川水位」
- 15:00-15:20 川合 功真 (大気海洋物理学・気候力学コース) 12
「領域大気モデルを用いた 2018 年台風 24 号(Trami)に伴う強風の研究」
- 15:20-15:40 松寺 望 (大気海洋物理学・気候力学コース) 13
「総観場に着目した北海道における強い降雪の気候変化に関する研究」

【第2日目】 令和3年2月5日(金)

●座長: 豊田 威信 (大気海洋物理学・気候力学コース助教)

- 9:40-10:00 太田 聡 (大気海洋物理学・気候力学コース) 14
「台風内の対流に伴う上層雲の機械学習による検出と対流バーストの解析」
- 10:00-10:20 神谷 宙 (雪氷・寒冷圏科学コース) 15
「UAVを用いた大雪山の風衝地における構造土の分布と形態の解析」
- 10:20-10:40 葛西 健太 (大気海洋物理学・気候力学コース) 16
「雲の多層構造を考慮した雲放射効果の緯度分布に関する研究」

< 20分休憩 >

●座長: 水田 元太 (大気海洋物理学・気候力学コース助教)

- 11:00-11:20 渡邊 裕 (生物地球化学コース) 17
「沿岸親潮水の化学的特性を形成する南部オホーツク海の役割に関する研究」
- 11:20-11:40 三浦 大輝 (大気海洋化学・環境変遷学コース) 18
「東部南太平洋および南大洋における生物生産を支える鉄供給過程の解明」
- 11:40-12:00 関 杏璃子 (生物地球化学コース) 19
「水圏における腐植物質と鉄の相互作用に関する研究」

< お昼休み 12:00-13:00 >

●座長:石井 吉之 (雪氷・寒冷圏科学コース助教)

- 13:00-13:20 瓢子 俊太郎 (大気海洋物理学・気候力学コース)..... 20
「ベリングスハウゼン海における周極深層水の流入及び氷河融解水の流出に関する
モデル研究」
- 13:20-13:40 橋本 燎 (生物地球化学コース) 21
「大気-海洋境界層における雷を模擬したプラズマ放電に基づく窒素化合物の動態の
考察」
- 13:40-14:00 王 晨燁 (生物地球化学コース) 22
「Formulation of disequilibrium for estimating the oceanic anthropogenic CO₂ over the
Southern Ocean」
(南大洋における人為起源 CO₂ を見積るための非平衡量の定式化)

< 20 分 休 憩 >

●座長:曾根 敏雄 (雪氷・寒冷圏科学コース助教)

- 14:20-14:40 三宅 誠音 (大気海洋物理学・気候力学コース) 23
「Isoguchi Jet の季節変動」
- 14:40-15:00 峯 康太 (大気海洋物理学・気候力学コース) 24
「南極ダルトンポリニヤにおける海氷生産量の経年変動とその冬季混合層への影響」
- 15:00-15:20 大西 晴夏 (大気海洋物理学・気候力学コース) 25
「西岸境界流続流ジェットの渦位強制モデルの提案と背景流の効果について」